

国語 試験問題

二月一日実施

注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二、問題は余白をふくめ、十八ページにわたっています。
- 三、試験時間は五十分間です。
- 四、答えはすべて解答用紙の決められた欄らんに記入しなさい。

京華中学校

受験番号

氏
名

余
白

問題は次のページから始まります。

余
白

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年生の翔は母を病気で亡くし、現在は病気を抱える父・英一と離れて母の実家で生活しており、転校先の学校で同級生の大也、美波（河崎さん）と出会う。大也とは次第に親しくなっていくが、ある日些細なことでケンカをしてしまった。翔は仲直りのために、叔母の香夏子たちと暮らす家へと大也を招待した。

「あれ、この本、どうしたの？」

ようやくお腹が満足した大也と、デザートのイチゴを食べているとき、香夏子が訊いた。

「河崎さんがくれたんだ。香夏子さん、ぼくがサーフィンするとか勝手に言わないでよ」

「ごめん。でも、美波のほうから訊いてきたんだよ。珍しいんだよ、あの子が他人を気にかけるなんて」

香夏子は薄茶色に日焼けした本をペラペラとめくった。

「この本、あの子が大事にしてたやつだよ。ね、やっぱり試しにサーフィンやってみたら？ あんた、美波に見込まれてるんだよ」

「あのっ！」

唐突に裏返った声が割り込んだ。今までひとことも口をきいていなかった大也だった。香夏子がぎよつとしたように身を引く。

「サーフィンするのって金かかるんすよね。今だとどのくらいかかるんですか。初心者ほどのくらいで波に乗れるようになりますか」

大也は自分の声の大きさに気づかず、矢継ぎ早に問いかけた。

「きみ、サーフィンに興味あるの？」

大也は顔を赤らめた。といっても、地肌が日に焼けているので、どす黒さが増したただけだった。

「興味があるって言うか、前にサーフィンは面白いつて言ってた人がいたから、ちよつと気になっただけっす。おれんち、金ないから道具とか買えないし」

大也は口ごもる。

「ショートボードだったら、初心者用の既製品で三〇五万くらいかな。オーダーメイドだったら、ブランドにもよるけど十万は超えるね」

「やっぱそんなにかかるんだ」

大也は目に見えてがっかりした。

香夏子は台所に立ち、冷蔵庫から新しい発泡酒の缶を持って戻ってきた。座布団の上に行儀悪く片膝を立てて座り、プルトップを開ける。

「子ども用のボードだったら譲ってくれる人、けっこういると思うよ。いずれは自分専用のボードが欲しくなるだろうけど当面は遊べる。他には水着やウェットスーツが必要だけど、真冬じゃない限り、ウェットもお古でじゅうぶんだよ。美波もそれでやってるし。仮にもサーフィンをやってる身だし、伝手は色々あるから道具は揃えてあげられる。まあ、わたしも慈善事業やってんじゃないから、レッスン代くらいは欲しいとこだけど……」

缶から直接ビールをあおって続けた。

「かわいい甥っ子がやりたいって言うなら、お金なんかいらないよ。ついでに、友だちが一人くらいくつついて来ても大目に見ちゃうけど？」

大也はぽかんと口を開けた。翔はため息をついた。

「なんで」

ぽくを巻き込むのさ、と口を開く前に、大也にぐいと肩をつかまれた。目と目が合う。びっくりするほど真剣な眼差しだった。

「頼む。一緒にサーフィンをしてくれ」

大也は畳に額をこすりつけるように、頭を下げた。

それまでのだんまりが嘘のように、大也はサーフィンについて質問し出した。最初は警戒気味だった香夏子だが、質問に答えているうちに意気投合したようだ。すっかり気を良くして、タブレット端末を取り出してきた。何年か前に八重浜町で行われたサーフィン大会の映像を見せてくれるという。

食い気味に画面を見つめる大也の横で、不承不承覗き込む。

粗い画質の映像が映し出された。薄茶色の砂浜に、濃い緑色の波。沖のほうから大きな波が押し寄せてきている。それを追いかけるようにして、何人かのサーファーがボードに腹ばいになったまま水を掻く。パドリング、というのだと香夏子が教えてくれた。

一人の体がサーフボードごと波に持ち上げられる。と、思った瞬間、その人はボードの上に立っていた。他の人は諦めたのか姿が見えなくなる。

「サーフィンにはいろいろルールがあつてね、一本の波には一人しか乗れないんだ。ピークにいる人に波の優先権があるから邪魔をしちゃいけない。ピークっていうのは波の頂点で……」

香夏子の説明を、翔はほとんど聞いていなかった。

画面の中で、波はますます盛り上がってゆく。最初は小さく見えた波は、ボードに乗っている人の背丈を軽く越えている。波は頂点に達すると割れ、白い泡に変わりボードを追いかけてゆく。サーフボードに乗っている人は、そんな波をからかうように、ボードを進行方向とは逆にして白い泡に向かってみたり、追いつかれそうになると身をかがめてスピードを出したりした。

やがて波がすべて崩れてしまうとボードの上に腹ばいになり、滑るようにして岸に向かう。戻ってきたその人は歓声で迎えられた。はにかんだ笑顔で応えながら砂浜を歩く男の人は、どちらかというとき華奢な体型で、とてもあんな大きな波に立ち向かったとは思えない。カメラが男の顔を正面からとらえたとき、翔は思わず呟いた。

「河崎さんに似てる」

へえ、と香夏子が驚いた声をあげた。

「よくわかったね。そう、この人が美波の本当のお父さん。彼もプロサーファーだったんだ」

香夏子は懐かしそうだった。

「サーフィンが上手だね。なんもできない人だったけど、波乗りだけは超一流だったなあ」

「死んじゃったの？」

口ぶりが悼むようなものだったので訊ねた。

「いや、生きてるはずだよ」

香夏子は苦笑して、「多分」と付け加えた。

「ずいぶん前にこの町を出て行って以来、音信不通なんだ。あいつのことだから、どこかで呑氣のんきに波乗りしてると思うけどね」

ふうんと頷うなずいていたら、香夏子がぼんと手を叩たたいた。

「そうだ。確か、お姉ちゃんが使ってたボードがまだあったはずだ」

え、と思った。

「お母さんもサーフィンしてたの？」

香夏子は驚き顔をした。

「知らなかったの？ こっちで暮らしてたときはわたしよりハマってたよ。お姉ちゃん、小柄こがらだったから翔も使えるんじゃないかな。ちよつと待って、見てくる」

香夏子は茶の間を飛び出し、なにやら外の物置をこそごそして戻ってきた。

元は白かったのだろが、薄黄色に変色した少し厚めのサーフボード。きちんと保管してあったのだろが。ずいぶん昔のものはずなのに、茶の間の畳に置かれたそれはつやつやと光を放っているかのように見えた。そつと触ふれてみると、しつとりと冷たく、手のひらに吸い付くようだった。

「このボード、使ってみる？」

香夏子に問われて、翔はボードから目を離せないままに頷うなずいていた。

その夜、もう一度、英一のスマートフォンに電話をかけた。大也と仲直りをしたと報告するためだ。よく考えてみたら、突つき飛ばされた一件を謝あやまってもらったわけじゃないし、なしくずしに一緒にサーフィンすると決まっただけで仲直りしたのかどうか微妙びみょうなところだったけれども。仲直りできたと伝えたら、英一は安心するだろう。また褒ほめてくれるかもしれない。

しかし、長いコール音の後に、英一のスマートフォンに出たのは祖母だった。

「翔ちゃん、ごめんなさいね。お父さん、もうベッドに入っちゃったの」

「まだ九時前だよ」

祖母はうーんと困ったように口ごもった。

「調子が悪いの？」⁶

重ねて訊ねると、祖母はかすかに息をついた。

「ちよつとね。お薬の量が変わったせいだと思うんだけど。ああでも、翔ちゃんは心配しなくて大丈夫よ」
「でもさ」

「大丈夫。翔ちゃんは八重浜町で元気でいい子にしていたら、それだけでいいのよ。そうしてたら、お父さんすぐに良くなるから」

祖母は少し強めの口調で遮ると、「風邪引かないように、勉強頑張つてね」と付け加えて電話を切った。
画面が暗くなったスマートフォンを畳に放り出し、翔はベッドに寝転がって天井を見上げた。

古びた木の天井にはシミがいくつも浮き上がっていて奇妙な模様を作っている。来たばかりの頃は何かに覗かれているような気がして眠れなかった。けれど、もう慣れた。シミはシミだ。お化けでもなんでもない。

いい子にしていたら英一は良くなるという。祖母は繰り返そう言う。だけど、いったいいつまでいい子にしていたらいいのだろう。

天井のシミに慣れるように、翔が八重浜町の暮らしに慣れていけばいくほど、英一との距離がどんどん遠ざかってゆくような気がした。⁷

（高遠ちとせ『遠い町できみは』による）

1. ——— 線部 1 に「大也は顔を赤らめた」とありますが、このときの大也の気持ちとして最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア サーフィンに対する興味を見抜かれ、憧れていたサーフィンをやれそうな話の流れになったが、香夏子の口から出した具体的な金額を聞いて身の程知らずだったということを強く感じ、恥ずかしいと思っている。

イ 少し気になっていただけなのに、すぐくサーフィンをやりたいかのように発言してしまったが、冷静に考えて香夏子は自分に対してサーフィンを勧めているわけではないことに気が付き、恥ずかしいと思っている。

ウ サーフィンへの興味を抑えきれず、思わず香夏子の発言をさえぎって質問をしてしまったが、道具を買う金もないのにサーフィンをやるかのようにたたみかけてしまったことに気が付き、恥ずかしいと思っている。

エ 初対面なので静かにしていようと思いつつ、サーフィンの話ならいいだろうと勇気を出して発言したが、隠していたサーフィンへの興味が香夏子にばれることになってしまい、恥ずかしいと思っている。

2. ———線部2に「大也はぽかんと口を開けた。翔はため息をついた」とありますが、このときの大也と翔の説明として適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア 本当はレッスン代をもらわないと商売が成り立たないはずだが、自分にサーフィンをやらせるために赤字を覚悟で誘^{さそ}ってくれる香夏子の優^{やさ}しさに感激している。

イ サーフィンをやるには金がかかると言いながら、無料で教えることをえさにして自分にサーフィンをやらせようとする香夏子の矛盾^{むじゆん}した考えに失望している。

ウ サーフィンには高額な費用がかかるはずなのに、いくら自分のサーフショップの商品だとは言っても全てを無料で譲^{ゆず}るという香夏子の大胆^{だいたん}さに驚いている。

エ 友だちのサーフィンをやりたがる気持ちをうまく利用し、なんとかして自分にサーフィンをやらせようとする香夏子の強引^{ごういん}さにうんざりしている。

オ けんかした友だちと仲直りをさせるために、ずっとやりたくないと言っているサーフィンを無理やりやらせようとする香夏子の意図にあきれている。

カ 自分には手が届かないと思っていたサーフィンだったが、道具もレッスンも無料で提供してくれるという香夏子の思いがけない提案に呆然^{ぼうぜん}としている。

3. ———線部3に「不承不承覗き込む」とありますが、翔が「不承不承」（「しぶしぶ」の意）覗き込んだ理由を説明した次の文の□にあてはまる言葉を三十字以内で答えなさい。

サーフィンをやるつもりはないのに、□ことで、断り切れなくなったと考えているから。

4. — 線部4に「翔はほとんど聞いていなかった」とありますが、その理由として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア サーフィンに興味はなかったはずなのに、自在にボードを操^{あやつ}って大きな波に乗る雄大^{ゆうだい}な映像に思わず目を奪^{うば}われてしまったから。

イ もともとサーフィンに興味などないため、いくら映像を見ても香夏子の説明するサーフィンの難しいルールが全く理解できなかったから。

ウ 初めてサーフィンの映像をちゃんと見て、サーファー同士がお互^{たが}いを尊重しながら波に乗るサーフィンの素晴らしさに引き込ま^ひれたから。

エ サーフィンの経験がなくてもわかるほど、他のサーファーに比べて圧倒^{あつとつてき}的に高い技術でボードを操る男性の姿に圧倒されたから。

5. — 線部5に「翔はボードから目が離せないままに頷^{うなづ}いていた」とありますが、このときの翔の説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 母がサーフィンに夢中だったことに加え、形見としてボードを自分に残してくれていたということを知り、その思いに应^{こた}えるためにサーフィンをやろうと決意している。

イ 母がサーフィンをやっていたという隠^{かく}された真実を知り、さらに奇跡^{きせき}的に残っていた母のボードを目にして、このボードは母から自分への贈^{おく}り物^{もの}にちがいないと考えている。

ウ サーフィンが気になり始めたことに加え、母もサーフィンをやっていたということを初めて知り、母がかつて使っていたボードに自分とのつながりを感じとっている。

エ 古いボードなのにそれを感じさせないことから、香夏子が自分のために大事に管理してくれていたことを知り、その思いに应^{こた}えなくてはならないと思っている。

6. ——— 線部6に「祖母はかすかに息をついた」とありますが、ここでの祖母の説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 体調の良くない英一に無理をさせないように、^あ当たり障りのない理由で話を切り上げようとしても翔が質問をやめないため、どう引き下がらせようか悩んでいる。

イ 英一の体調が良くないことを隠したいのに、翔がその気持ちを理解せずなかなか質問をやめようとしないうえ、余計なことを探ろうとしてくる翔に対していらだちを感じている。

ウ 英一の体調は今までよりも悪くなってきたが、翔に専門的なことを話しても理解できないため、英一の詳しい容態について話してもしょうがないと考えている。

エ 翔に英一の詳しい状態を言わないようにしていたが、^{かくしん}核心をつく質問をされてごまかしきれなくなり、余計な心配をさせないようにこれ以上の質問を断ち切ろうと考えている。

7. ——— 線部7「翔が……気がした」について京太くんと華子さんが会話をしています。 I ・ II にあてはまるものとして最も適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

京太 「八重浜町の暮らしに慣れていけばいくほど、英一との距離がどんどん遠ざかってゆく」ってどういうことだろう。

華子 なんで八重浜町の暮らしに慣れると、お父さんとの距離が遠ざかるのかしら。

京太 そうだ、「慣れる」を辞書で引いてみよう。……辞書を見ると、「その状態で長く置かれて、通常のこととして受け入れられるようになる」って書いてあるね。

華子 あ、八重浜町の暮らしに慣れるってことは、その前に書いてある、I「というところと関係あるんじゃない？」

京太 ああ、なるほど。しかも、もともと翔は八重浜町に住んでいたわけじゃなくて、お父さんと一緒にいたんだよね。

華子 そうか。翔は、IIと感じているのね。

京太 だからお父さんとの距離が遠ざかる気がしてしまうんだね。

I

- ア 画面が暗くなったスマートフォンを畳に放り出し
イ 古びた木の天井にはシミがいくつも浮き上がっていて
ウ 何かに覗かれているような気がして
エ いったいいつまでいい子にしていたらいいのだろう

II

- ア 八重浜町での暮らしが少しずつ楽しくなっていくことで、病気のお父さんのことを気にしないことが通常になっ
ていってしまう
イ 長期にわたって八重浜町で暮らし続けているとそれが当たり前になってしまっ、お父さんとの生活の方が非日
常になっってしまう
ウ お母さんが熱中していたサーフィンに自分も夢中になっってしまうことで、サーフィンをやっていないお父さんと
の距離が遠くなっってしまう
エ 母方の親戚である大也や香夏子と仲良くなっっていくことによって、父方の親戚である祖母や父と少しずつ疎遠に
なっってしまう

8. 本文の表現の説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

- ア 疑問形の発言を多用することで、登場人物が抱いている疑問だけでなく、その人物が抱く不信感も読者が読み取り
やすくなっている。

- イ 「薄茶色の砂浜」や「白い泡」など、色を用いて表現することで、登場人物の心情を読者が読み取りやすくなっ
ている。

- ウ 登場人物の発した言葉に「……」を用いることで、会話に余韻や沈黙状態が続いていることを読者が読み取りやす
くなっている。

- エ 特定の登場人物の視点に寄り添って表現することで、その人物の心情の移り変わりを読者が読み取りやすくなっ
ている。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「死は必ず生につながる」と感じる私にとって、現代社会は、人間の「いのち」だけでなく動物や植物の「いのち」も大事にされていらないように感じます。

(中略)

私は若い頃、農業改良普及員という指導員をしていました。その頃の田んぼの農薬散布は、虫や病気が発生しなくても、決められた日に、村中で一斉に農薬を散布することが当然のように行われていました。そのことに疑問を感じ、A ¹ 導導する自分を情けなく思っ、私は「減農薬」という考え方を一九七八年に提唱しました。そして虫見板を開発し、この板を使って虫たちを観察して、被害が出るかと判断した時だけ、農薬を散布するという技術を普及させました。すると農薬の散布はそれまでの一二回から、二回に減らすことができました。さらに無農薬への道も開かれました。

つまり、農薬を極力使用しない方法もあるというのに、未だに虫が発生するかどうかを百姓自身が確認せずに、予防のために農薬を散布するという技術が、平気で全国各地で行われています。私が一番心配しているのは、不必要な農薬散布で生きものの「いのち」を奪うことへの百姓の感性が麻痺していくことです。百姓仕事の中の「いのち」の引きつぎの感覚が根底から破壊され続けています。

こうした状況を見てみると、農業は「いのち」を大切に方向に発展しているのではなく、軽んじる方向に「進歩」² していると
いと言わざるをえません。

きっかけは明治時代以降に世の中が近代化に向けて大きく変化したことです。国富を増やし、国力を増して、西洋先進国に追いつくのが日本国家の目標となったからです。工業ではいち早く、資本と新しい技術が導入され、生産が飛躍的に増えていきました。そこで、農業も「資本主義の発達に合わせる」「進んでいる他産業を追いかける」方向へと舵がきられました。

昭和初期に、東畑精一という農業経済学者はこのことを、毎日の仕事のことなら百姓が一番くわしい。学者や政治家の出番はない。しかし、これからの社会は毎年同じ仕事をしていては、資本主義の発達に乗り遅れてしまう。農業を資本主義の発達に遅れないようにするのが、政治家と学者の責任である、と『日本農業の展開過程』（岩波書店、一九三六年）に書いています。つまり、世の中が変わらなければ、今のままでいいが、資本主義を導入してしまった以上、他に選択肢はないというわけです。以来、³ このような考え方が日本の農学と農業政策の主流となりました。

B 私は、毎年同じ仕事とくらしではなぜいけないのか、よくわからないのです。けれど「他の産業を見てごらん。農業も進歩すると、もっと仕事が楽に、くらしも便利に、経済的にも儲けを増やすことができますよ」と言われると、ついその気になる百姓がいてもおかしくありません。⁴

じつは、当時の百姓の中に全く別の考え方を持っていた指導者がいました。橘孝三郎という茨城県の百姓です。彼は家族で山野を拓き、百姓をしながら青年たちの塾を開き、資本主義ではない（社会主義でもない）、別の社会のあり方を真剣に考え続けました。

そして、農業は資本主義とは合わない。なぜなら、食べものは人間が製造しているのではなく、天地自然のめぐみを百姓が手入れをして、（農を本として）受け取っているものだからだ。百姓の相手である作物や生きものたちは経済で生きているのではない、と見抜きました。橘の考え方は、当時の百姓の貧しさと、社会的に虐げられた農村を救おうとした「農本主義」の思想をリードしました。

現代から振り返ってみると、どちらの考え方が正しかったのでしょうか。私は、橘孝三郎の考えに基づいた社会になっていれば、農業はここまで荒廃することはなかった、と思います。

明治時代から大きく変化した農業でしたが、戦後はさらに資本主義の発達に乗り遅れないように「農業近代化（進歩・発展）」を国は推進してきました。多くの農家がそれを受け入れました。⁵

まず、国は百姓仕事に機械や化学肥料や農薬を取り入れるように指導しました。続いて農地を改良して広くして仕事の効率が上がるようにし、面積あたりの労働時間を減らしました。そのために百姓は、機械や資材などの購入に、お金を使いました。それは、他の産業の発展につながりました。一方、お金を使うようになったので「経営」感覚が百姓には必要になりました。つねに市場価値を意識するようになりました。

この結果、百姓は、そして農業はどうなったのでしょうか。

百姓がどんどん減っていきました。江戸時代には百姓の数（現在では農家人口に相当します）の全人口に占める割合は、約八〇%だったと言われています。統計数値が残っている一九〇五（明治三八）年は、農家人口は二九七五万人で総人口四六六二万人の六四%です。大正時代になると農家人口は五七%となり、一九六〇（昭和三五）年には三七%でした。一九九〇（平成二）年では一四%、二〇二〇（令和二）年には三・八%（農業従事者数一五二万人で一・二%）になりました。

それだけではありません。農業に資本主義の考えを取り入れると、百姓は仕事に余裕がなくなっています。つねに効率が上

がるようにし、面積あたりの労働時間を減らしつつ、収穫量しゅうかくりょうも上げるとなると、C 田んぼの見まわり(田まわり)の回数は、毎日二回だったのが一回になり、二日に一回になり、三日に一回と減り続け、だんだんとそれも負担になってきています。

そこで田んぼの水口にロボットを設置して、水をコントロールさせる「スマート農業」というものを国は本気で進めようとしています。

(中略)

つまり田んぼは「米さえ生産できればいい」という感覚で、とらえられるようになっていきます。現に米どころとして有名な県では、田んぼの畦あぜの七割ほどに除草剤じょそうざいがかけられていて、田んぼの風景としても異常です。それは農業への信頼しんらいを根本的に裏切ることになるのではないのでしょうか。そこまできると□とは、言えないと私は思います。

私は、百姓は米や野菜や果物や花を「つくる」ことはできないと考えています。つくるのは、米や野菜や果物や花、いずれも作物自身が持つ力とそれを支え続ける天地自然の力です。そして百姓は、それら作物の手入れをして、日々「いのち」を見守るだけです。なんだか消極的な印象ですが、そうではありません。

受け身であることを自覚しながら、作物を見守ることは、とても豊かな感覚を私たち百姓にもたらしてくれます。何よりも生きものや天地自然への感謝の気持ちが強くなります。一緒に生きているなあと思いますし、いつも田畑や村を包んでいる自然環境かんきょうに自分自身も包まれて、一体化する感覚も芽生え、育っていきます。

そもそも百姓は、「作物はつくるのではなく、できるものだ」と教えられてきました。そう思って農作業をする百姓の多くは、作物は天地自然からの「めぐみ」⁶だという感覚が強いのです。

しかし、現在は、人間が作物を「つくる」という気持ちだが、百姓の中でも強くなってきた感じがします。そうした人間の欲望のために新しい技術を行使すると、仮に成果が上がったとしても、だんだんと息苦しくなってきたそうです。その結果、生きものの「いのち」が見えにくくなる、そんな気がしてなりません。なぜなら、生きものにも、役立つこと、有用であることを求めてしまうからです。何に役立つかがわからなくても、そこにあるそれだけで、意味がある、そう思えなくなってしまうのです。

(宇根豊『農はいのちをつなぐ』による)

1.

A
く
C

 にあてはまる言葉として適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア しかし イ また ウ つまり エ たとえば

2. ——— 線部1に「虫や……散布する」とありますが、こうした行為こういについて、筆者が問題だと考えていることとして最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 生きものの命を奪う感覚が欠如けつじょした状態で農業を行うため、畑に農薬を散布する回数が増え続けていってしまうこと。
イ 楽に農業を進めるために新しい農薬を開発して農業を行うため、百姓が虫の命を奪うことにためらいがなくなること。
ウ 従来の方法の良し悪しあを考えずに農業を行うため、百姓が生きものの命を奪うことに何も思わなくなってしまうこと。
エ 農薬を散布し害虫に左右されない農業を行うため、農作物を守ることへの百姓の感性がなくなってしまうこと。

3. ——— 線部2に『進歩』している」とありますが、ここで筆者が「進歩」という言葉にかぎかつこをつけている理由として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 無農薬への道を開くという筆者が果たした功績は、日本が進めてきた生産力向上という進歩よりもすばらしいものであるということ強調したいから。

イ 生産量を増やすという点で表向きには進歩していると考えられるが、それだけを第一に考えることは実際には退化ということであることを強調したいから。

ウ 資本主義の発展に乗り遅れてしまっていた日本だが、明治時代以前の古い農業のあり方を大きく変えることで西洋先進国に追いつくほど進歩したことを強調したいから。

エ 農薬を使うという新しい農業のあり方が自然を大きく破壊し、さらに虫の生態系を悪い方に変化させたという点で進歩ではないということ強調したいから。

4. ——— 線部3「このような考え方」とはどのような考え方ですか。「くことを第一とする考え方」に続くように二十字で探し、初めと終わりの五字を抜き出さない。

5. ——— 線部4「全く別の考え方」とは、どのような考え方ですか。最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 農業は自然と協力して行うものであり、一方的にコントロールすべきものではないという考え方。

イ 農業は自然を維持しながら行うものであり、むやみに進歩させるべきものではないという考え方。

ウ 農業は自然のことだけを考えて行うものであり、儲けを増やすための行為でないという考え方。

エ 農業は自然を相手に行うものであり、利益を追求する経済活動とは合わないという考え方。

6. ——— 線部5に『農業近代化(進歩・発展)』を国は推進してきました」とありますが、これによって起こったことを説明した次の文章の I Ⅳ にあてはまる言葉を、指定字数でそれぞれ抜き出しなさい。

農業の近代化を目指す国の方針が、結果として百姓が I (十字) を購入するためにお金を使う流れを作り出した。そのことによつて百姓は、農業を営むことを Ⅱ (二字) することと捉_{とら}えるようになり、生産物の Ⅲ (四字) を考_{かんが}え始めた。その結果、百姓の数は減少し、残った百姓たちはより Ⅳ (五字) を上げること_{こと}を追い求めるようになった。

7. にあてはまる言葉として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 除草剤は必要だ

イ 田んぼは自然だ

ウ 米は日本の特産品だ

エ 農業は難しいものだ

8. ———線部6「人間が作物を『つくる』という気持ち」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 「人間が作物を『つくる』」という考え方を筆者がどのように捉えているか説明した次の文の□にあてはまる言葉
葉を五十文字以内で答えなさい。

本来作物を作るのは□と捉えている。

- (2) 「人間が作物を『つくる』という気持ち」を持つようになったことで、現代社会のどのような状況を招いたと筆者は考えていますか。「〳〵状況」に続くように三十四字で探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

三、次の①〳⑤の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- | | | |
|----------------|---------------|--------------|
| ① 先生は毎日塾を訪問する。 | ② 車窓から景色を眺める。 | ③ 会社の方針を決める。 |
| ④ あごで指図する。 | ⑤ 大きなことを成す。 | |

四、次の①〳⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| ① 授業でトウロンする。 | ② 新記録をジュリツする。 | ③ 原因をキュウメイする。 |
| ④ 急にワレに返る。 | ⑤ お店でクチベニを買う。 | |